



## 那覇100年 協働シンポジウム

# コロナ禍の今

# 那覇の協働をふり返り

# これからをえがく

ひとりひとりにとって、  
住みよい地域となるため  
今後のまちづくりを考える



日 時

2021年 **9月7日 (火)** 18:30~21:00

会 場

オンラインにて開催

プログラム

**参加申込 89名**

18:30 開会挨拶

18:35 オリエンテーション (事業概要説明等)

18:45 基調講演

「那覇の協働をあらためて考える その始まりにあたって」

講師：櫻井常矢 氏 (高崎経済大学 地域政策学部 地域づくり学科 教授)

19:25 休憩

19:30 パネルディスカッション

- ・ 糸数 未希 氏 (NPO法人にじのはしファンド 代表)
- ・ 饒波 正博 氏 (与儀小学校区まちづくり協議会 会長代行、なは市民協議会 代表)
- ・ 前原 信達 氏 (銘苅新都心自治会 会長)
- ・ 屋比久 尚也 氏 (那覇市職員 那覇市監査委員事務局 副参事)

21:00 閉会挨拶



## 城間 幹子 市長

### あいさつ

市政100年 協働によるまちづくり

多様な とらえ方がでてきた

協働をよりかえり、

これからのまちづくりを考えていきましょう

いつまでも愛着をもって、

くらしつづけられた那覇を!!

## 登壇者紹介



基調講演 講師  
櫻井 常矢 氏

高崎経済大学 地域政策学部  
地域づくり学科 教授

進行

小阪 亘

NPO法人まちなか研究所わくわく 代表理事

パネリスト



糸数未希 氏

NPO法人にじのはしファンド  
代表



前原 信達氏

銘苅新都心自治会 会長



饒波正博 氏

与儀小学校区まちづくり協議会  
会長代行、なは市民協議会 代表



屋比久 尚也 氏

那覇市職員  
那覇市監査委員事務局 副参事

## オリエンテーション (事業説明)

那覇市 市民文化部  
まちづくり協働推進課

渡嘉敷 洋美



那覇100年 協働シンポジウム  
「コロナ禍の今 那覇の協働を振り返り これからをえがく」

### まちづくり協働力アップ事業

令和3年9月7日  
那覇市まちづくり協働推進課

#### 事業目的

コロナ禍やコロナ後の  
地域課題の解決を図るため、

協働力を高める

#### 事業内容

- ① 市民活動の専門相談
- ② 協働の手引書 (仮称) 作成

### 市民活動団体・NPOへのアンケート

(コロナ禍で)  
今後、特に力を入れて  
取り組みたいことは  
何ですか？

#### 市民活動団体・NPOの50%が

- ・行政との協働
- ・他市民活動団体、自治会、  
企業との協働

に力を入れたい、と回答

#### 自治会の20%が

- ・行政との協働
- ・他自治会・市民活動団体  
との協働

に力を入れたい、と回答

### 協働の手引書とは

多様な主体が  
共通の目的を持って  
協働を進めるための  
土台となるもの

### 多様な主体とは

= 市民や行政

[市民 (= 市民活動団体・  
NPO・自治会・校区まち協  
・企業・住民、ボランティア) ]

### 協働シンポジウムの位置付け

多様な主体が  
協働を進めるにあたって  
必要なことを考え、出た  
意見を手引書に反映させる

### 協働とは

= まちづくりの手段

⇒ 協働を磨き直す

### 那覇市の協働のあゆみ

1998年 (H10)  
第3次総合計画で  
はじめて「協働」という  
言葉が使われる

### 協働の体制づくり①

- NPO活動支援センター  
の設置
- NPO活動支援基金  
の設置

### 協働の体制づくり②

- 協働大使の委嘱
- 小学校区まちづくり  
協議会の設立支援

### 協働を進めるための指標

(一部抜粋)

- なは市民活動支援センターの利用件数
- 小学校区まちづくり協議会の設立数
- 協働大使委嘱者数
- 道路ボランティア団体数
- 災害時応援協定事業者数・・・など多数

### 那覇市の協働をふり返る

- 協働の始まりから20年
- 第5次総合計画の中間見直し  
⇒これからをえがくきっかけ  
協働の手引書

### 那覇市職員へのアンケート

那覇市の目指す職員像「協働  
により、那覇市の魅力を高める  
ことができる職員」を心がけていま  
すか？

### 市職員の具体的な行動は？

「市政の情報を広く市民と  
共有することで、協働による  
まちづくりを推進します」  
との回答3.5%

# 那覇の協働をあらためて考える その始まりにあたって



櫻井 常矢 氏 (高崎経済大学 地域政策学部 地域づくり学科 教授)  
地域づくりのプロセスに市民主体の調査・学習やワークショップ活動、あるいは自治会、NPO、公民館活動等の事業活動を介在させた社会実験を全国各地で展開。人材育成(ひとづくり)を軸とした市民協働によるまちづくりや地域コミュニティ再生に実践的にアプローチするなど、市町村自治体を中心に関連する政策アドバイザー等を務める。市民向け学習会や行政職員研修を全国各地で重ねる。

2006年に那覇で講演  
長いこの  
20年 協働の取り組み 失業者 むずかしさ  
1998年から ←NPO法  
ふりかえるタイミング  
今回の参加 → 問題意識



那覇の協働をあらためて考える  
— その始まりにあたって —

高崎経済大学 櫻井 常矢

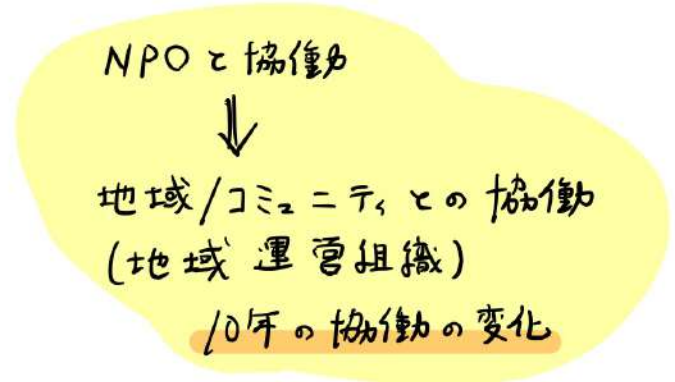
はじめに

## 1. なぜ今、協働なのか

考えの共有 → 課題の提起

- 多様化・深刻化する地域の課題
  - 高齢化、災害、介護(予防)、子育て、格差・貧困、共生、生き方探し...
  - 行政だけでは対応できない課題
  - 解決
- 地域のくらしを支えるために
  - 各地で進む協働の制度化
  - 協働のパートナーは?
  - 近年の動向としての地域自治
  - 財政問題を理由にした協働? 現役後の... 楽しく、元気に 生きてく
  - 地域(市民)の力がなくて 解決できない
  - お互いが(育つ)こと
  - 行政と市民
  - 協働する理由

地域の課題を解決するために協働する



5~6年 → 先進自治体ほど 進んでいなかった

育つ 学ぶ 変わる できていたか

協働の考え

何のために? (目的)

## 2. プロセスとしての協働

みんななければ前に進めない

## プロセスが協働

市民・行政  
いっしょに活動

自分たちだけで解決できない

ときに協働

何でもかんでも

協働ではない

【地域課題】 ↔ 【話し合い】 ↔ 事業・活動 ↔ 振り返り

よいか  
悪か  
(守りたいもの  
大切にしたいもの)

役割分担

いったりきたりをくりかえす

重要

### □ 事業活動の捉え方

そのために力を合わせる?

事業委託は?

市民へ委託  
(事業者へ委託)?

いっしょに行なう作業 → **共同作業**

事業活動を目的にしない

→ 協働は手段であり、結果ではない

### □ プロセスへのこだわり

例) 指針 3. ルール (4) 話し合いであること

「市民への依頼や説得を行う場、行政への要望等を行う場でもありません」

委託にいたるまでのプロセス

丁寧な評価の視点

数字より言葉

数字だけで  
おわらせてはいけない

## 3. 那覇を振り返るにあたって

大崎市  
話しあう協働のまちづくり 条例  
指針 → 話しあいの手法 (制度)  
3. (1)  
(4) 話しあいであること

### □ 具体的な協働現場の検証

コロナ禍を契機に

丁寧に わかりやすい

### □ 協働大使

あまりみかけない

団体と団体 複数のもの

どういう役割  
なのか?

みえない

那覇市固有の取り組み

### □ 経験の長さとパートナーの多様化

20年

小学校区まち協  
NPO

育つ・学ぶ・変わる  
環境整備

支援する体制・手法

パートナー変っている中でしくみの見直し

## 登壇者紹介



基調講演 講師  
櫻井 常矢 氏

高崎経済大学 地域政策学部  
地域づくり学科 教授

進行

小阪 亘

NPO法人まちなか研究所わくわく 代表理事

### パネリスト



糸数未希 氏

NPO法人にじのはしファンド  
代表



前原 信達氏

銘苅新都心自治会 会長



饒波正博 氏

与儀小学校区まちづくり協議会  
会長代行、なは市民協議会 代表



屋比久 尚也 氏

那覇市職員  
那覇市監査委員事務局 副参事

2002 協働ケルトレソ

子ども課 山川 圭 かん

会議・資料づくり メンバーサポート  
楽しさを 知ることできた  
してくれた

地域での活動

5つの団体 たちあげ

社会の居場所を得ることできた

NPO活動支援センター（プレハブ）  
育ってもらえた  
アドバイザー・会費・支える人がいた

### パネリスト紹介



糸数未希 氏

NPO法人にじのはしファンド 代表

那覇市在住、早稲田大学社会科学部卒、沖縄電力（株）勤務。2002年、地域における子育て支援を目的とした有償ボランティアグループ「保育すけっとinナハ」を発足。2011年、「にじのはしファンド」を発足。県内の児童養護施設、里親家庭、ファミリーホームから進学や資格取得を希望するお子さんへの経済的支援や地域の子ども・若者等の居場所事業「にじの森文庫」の運営等を行っている

保育すけっとinナハの  
発足式  
2002年4月子育て支援  
センターゆんたく（鏡原  
保育所）



父母の急用に応えます

2005年7月NPOうまんちゅ子育て支援ネットワークの会議  
（那覇市ボランティアサロンにて）



集団保育の様子  
（2013年5月ホームプラザ掲載）

課題がみつかっていく

子育て

← ぎゃくたい ← 産後うつ

養育施設

たくせんのプロセス 大事

居場所

育っ  
学び  
変化

次の世代への  
バトンタッチ  
うまくいかなって  
もったいない

糸数さん

Q. 那覇の協働の魅力と課題は？

魅力：方向性の共有

課題：継承



# 饒波正博 氏

与儀小学校区まちづくり協議会会長代行、  
なは市民協議会

1963年那覇市生まれ。沖縄赤十字病院勤務。2005年に帰沖後よりまちづくり活動に参加。沖縄自治研究会、なは市民協議会、与儀小学校区まちづくり協議会、那覇市協働によるまちづくり推進協議会に所属している。モットーは“みんなで良い社会を作っていこう！”。最近では夢であったラジオDJにも挑戦中。（マー坊ター坊のまちづくりハッピーレディオ@FM那覇）

2013年11月与儀小区まち協トックリキワタまつり



与儀小区まち協一斉清掃



参加の  
ハードル  
ひくい

2011年3月19日 与儀小区まち協設立総会



2011.3 設立、那覇で一番早く、  
企業・PTA・自治会 ...  
いろいろな組織で

依存 → 自立

話しあうこと

地域  
行政  
...

出会い 作法を学べた  
市が作った組織  
声かけやすい

話し合い だけ 出入り  
自由

課題は？  
Qのつなげようか

市民の力にかえるか  
まち協をどのような役割で  
位置づけているのか

→ 地域をながめる役割

饒波さん

Q. 那覇の協働の魅力と課題は？

- 出会い
- メンバー不足、パターナリズム克服（過保護な市、依存する市民）  
行政

ひらがっていかない

地域で  
行政内で

パネリスト紹介



前原 信達 氏

銘苅新都心自治会 会長

1955年那覇市生まれ。銘苅新都心自治会の立上げから参画する3代目会長。この間、那覇市本庁管内自治会長会会長、那覇市自治会長会連合会会長を歴任。まちづくりコンサルタントとして35年従事し県内の総合計画、伝建地区、景観計画、近代化遺産調査などに携わる。那覇市、浦添市、渡名喜村で教育・文化・福祉・都市計画などの委員会、審議会委員を務めている

銘苅新都心自治会の活動紹介 ～「3つの宝」と「5つの柱」～

<住みよい地域をつくる「5つの柱」>

①安心・安全なまちのために



遊歩訓練、危険個所点検、夜間防犯パトロール、保安灯設置など

②美しい・きれいなまちのために



シングルカーや学校まわり、公園などの清掃

③地域の人を知っている・

つながっているまちのために



自治会まつりやゆんたく交流会、見守り隊、夏休みラジオ体操など

④楽しい・ワクワクするまちのために



公園での季節行事や植樹、ユニークな表示板、トイレの美化など

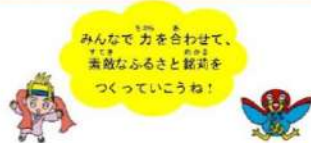
⑤地域のことを知る機会があるまちのために



地域の歴史や自然などの学芸会、掲示板の活用など

<銘苅地域の「3つの宝」>

- ①新しいまちだけど“歴史の舞台”がある
- ②都心だけど大きな“自然の杜”がある
- ③住みよい地域をつくる“人材”がいる



『ゆんたく』の中からうまれた柱  
体系したとりくみ。

近年の協働の取り組み紹介 ～「地域冊子」と「モデル地区」～

①地域冊子「私たちのふるさと銘苅」

「銘苅愛」冊子に込めて  
自治会と小学校PTCA発刊

21年(水曜日) 3月1日月曜日 地 域 20

「私たちのふるさと銘苅」  
～暮らしよく知り、暮らしよくつくる～

目次

- 01 地域冊子「私たちのふるさと銘苅」
- 02 自治会と小学校PTCA発刊
- 03 自治会と小学校PTCA発刊
- 04 自治会と小学校PTCA発刊
- 05 自治会と小学校PTCA発刊
- 06 自治会と小学校PTCA発刊
- 07 自治会と小学校PTCA発刊
- 08 自治会と小学校PTCA発刊
- 09 自治会と小学校PTCA発刊
- 10 自治会と小学校PTCA発刊
- 11 自治会と小学校PTCA発刊
- 12 自治会と小学校PTCA発刊
- 13 自治会と小学校PTCA発刊
- 14 自治会と小学校PTCA発刊
- 15 自治会と小学校PTCA発刊
- 16 自治会と小学校PTCA発刊
- 17 自治会と小学校PTCA発刊
- 18 自治会と小学校PTCA発刊
- 19 自治会と小学校PTCA発刊
- 20 自治会と小学校PTCA発刊

②要援護者支援モデル地区

要援護者支援モデル地区

地域で避難支援を行うときに重要なこと

- 1. 避難支援は、地域住民の協力が不可欠
- 2. 避難支援は、地域住民の協力が不可欠
- 3. 避難支援は、地域住民の協力が不可欠
- 4. 避難支援は、地域住民の協力が不可欠

ユニークな2つのとりくみ

前原さん

Q. 那覇の協働の魅力と課題は？

- 地域は総合的、横とのつながり  
= 協働があたりまえ
- 協働のブラッシュアップ  
= 理論と実践の積み上げ、共有

## パネリスト紹介



### 屋比久 尚也 氏

那覇市職員 那覇市監査委員事務局 副参事

1993年那覇市役所に入庁し道路管理課へ配属。2002年都市計画課、2016年公園管理課等を歴任し、2021年度より現職。これまで「国場川くねくね公園づくり」や「国場川こいのぼりまつり」、「那覇新都心公園夜ピク（夜のピクニック）」等、地域との協働によるまちづくりを積極的に展開する。ポートランドやクリチバのまちづくり（人づくり）に刺激を受ける

### 事例① 国場川くねくね公園

地域の声を聞く → ふれあいの場  
こしたい。

草がり → ワークショップ → 公園づくり

### 事例② 国場川こいのぼり祭り

### 事例③ 夜ピク in 新都心公園

地域から公園の新たな使い方の提案

屋比久さん

Q. 那覇の協働の魅力と課題は？

- 地域力は無限大
- 「名わき役」になろう

地域が主体 ↑

職員の関わり  
よわくなっている。



糸数さん

Q. 今後の那覇の協働に必要なことは？

- NPOの取り組みを応援してくれる企業とつながる仕組み作り
- 政策決定の場に企業とNPOを積極的に入れていく仕組み作り

にじの森文庫  
沖銀の3Pで  
キフへつながった

話しあっても重なる  
プロセスでわかりあって  
行政だけが決める  
必要ない

どんなサポートが？  
継承できる？

教育する場  
出会うの場

一本づつ  
異業種の人との出会い

校区まち協 → 補完

企業も

行政も  
主体になる  
べき

断れることもできた  
名・わけ役として、地域が  
がんばれるように  
行政内の他課との連携も

藤波さん

Q. 今後の那覇の協働に必要なことは？

自治という理念

理念のビルトイン  
市民も市も自分の足で  
立つ、学びあうこと

前原さん

Q. 今後の那覇の協働に必要なことは？

- 行政と地域の信頼関係づくり (新人職員研修、地域懇談会の拡充など)
- 市民大学大学院大学卒業者 (協働人材) の地域での見える化
- 「校区ビジョン (地区別総合計画)」づくりで、誰もが行動できる環境構築

関連する課へつなぐなど

地域での認知

小学校単位で

校区まち協 (30団体)  
情報共有 → つながる  
プラットフォーム

自治会だけで  
できない

つながるしみ  
は？

屋比久さん

Q. 今後の那覇の協働に必要なことは？

- 「できる規定」を探そう
- 「世代間・組織間」の連携 (協働)

